

あいおいニッセイ同和損保職場革新懇です。
講演会の案内と臨時国会で大軍拡、定数削減、憲法改正などの暴走を止めよう
の呼びかけとニュース 111 号を紹介します。

<呼びかけ文>

2026 年 9 月

あいおいニッセイ同和損保職場革新懇ニュース 111 号のご送付
ならびに「損保 9 条の会・生保 9 条の会合同講演会」のご案内

世話人一同

9 月に入り猛暑は一段落しましたが、全国で豪雨による被害が発生しています。
この間の地震や水災等で被害に遭われた皆さまに、お見舞申し上げます。

あいおいニッセイ同和損保職場革新懇ニュース 111 号をお届けします。ご一読ください。
あわせて、10 月 24 日（土）開催の「損保 9 条の会・生保 9 条の会合同講演会」のご案内を
お送りします。当日は、「憲法 9 条を守り抜く！－「戦争する国」づくりに抗して－」と
題して、九条の会世話人の清水雅彦さんに講演いただきます。
詳細は同封のチラシをご覧ください。懇親会も予定しています。

さて、先の臨時国会で、高市政権は数の力で「国旗損壊処罰法」「皇室典範改正」「副首都法」などの悪法を次々と成立させました。更に 7 月に決定した「骨太の方針」では、
「責任ある積極財政」「強い経済」の名のもとで、大企業への巨額な投資や軍事費拡大・
軍事経済化を進めようとしています。

10 月に臨時国会が始まります。高市政権は大軍拡、衆議院定数削減、更には憲法改正を目
論んでいます。

私たちは、この政権の暴走をくい止めるために、これからも声を上げ行動して行きます。

以上

（ご参考） 阿南さんの記事にある、本田教授の国会前スピーチの動画は以下の
QR コードから視聴できます。



あいおいニッセイ同和損保 革新懇ニュース

発行者 ニュース編集委員会

【革新懇の三つの共同目標】

1. 日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
2. 日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
3. 日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

高市首相よ、そこをどけ！生活軽視と戦争国家づくりへの怒り

阿南 圭一

本田教授が語る、暮らしと政治の問題

「とにかく私は怒っています」と切り出した本田由紀東京大学教授の冒頭の挨拶。8月8日の名古屋での講演では、家族形成の困難化と急速な少子高齢化、格差や貧困率の世代間連鎖、保育・教育や社会保障制度・労働政策への公的支出不足と不備、著しいジェンダーギャップ、経済の低迷とスキルを活かさない働き方、自己・社会・政治意識の低調さ、そして「自己責任」を強調し困窮者や外国籍住民などマイノリティに対する差別的な意識の強さを指摘し、背景にある自民党政治を痛烈に批判した。

国会前でのスピーチ、ネットで広がる共感

先立つ5月の国会前集会で本田教授は、「国の成り立ちを根底から破壊するようなことばかりしているのが自民党であり、高市政権である。生命も生活も尊厳も守れない、守ろうともしない者たちをのさばらせておく必要があるのか。主権者たる私たちには言う権利がある。『そこをどけ』、数多くの人々に弊害をもたらすような事をやり続けるお前たちにはそこにいる資格などない。ましてや、その汚い手で憲法をいじる事など許されないと訴えた。1000万回を超えたネット閲覧者は、共感を通り越して自分事として溜飲を下げたのではないか。

政治への不信感、戦争に向かう動きへの怒り

私にも怒りがある。日本人にとって特別な8月にあって、高市の厚顔無恥さに。批判を浴びながらも SNS で流した熊本地震被災地訪問動画の醜悪さに更なる批判が集まる。嘘が暴かれるのを恐れて国会に行きたがらず、台本無しには何も語れない首相。だが最も

腹が立つのは、自民党が進める無責任な戦争国家づくりだ。村山談話の「反省とお詫び」に対して、議員1年目だった高市首相は「勝手に代表して謝っては困る」「当事者ではないので反省なんかしていない」と強弁した。専守防衛を放棄した安倍元首相の安保法制、敵基地攻撃能力や防衛費膨張を決めた岸田元首相の安保三文書、そして武器輸出全面解禁、非核三原則にまで手をつけようとする高市政権。台湾有事発言から始まり、8月15日終戦記念日では「戦争の惨禍を繰り返えさせない」と意味不明な言動をした。

監視される社会への不安、軍拡への危機感

陸上自衛隊の市民に対する「愛国心などの思想調査」に関する小泉防衛大臣の発言「不適切な活動は確認していない」には驚く。自衛隊のタガが外れ、政治家もタガが外れているので、このままでは制御不能になる。憲兵が横行した戦前の監視社会がすぐそこまで来ているようだ。こうした戦前回帰を進める自民党政権に抗うには、「戦争ノーの声」を大きくするしかない。

声を上げ始めた若者たち、暮らしを優先した政治へ

若者の保守化が言われるなかで、高市の身勝手な政治への怒りの行動が国会前や渋谷スクランブル交差点を始め各地で繰り広げられ、若者のエネルギーがどんどん大きくなっている。「日本列島を強く豊かにしていく」と語る高市首相のどこに生活者視点があるのか。後手後手の地震や豪雨災害の対応。ミサイルよりエアコンを被災地に、防衛より防災に予算を。この当然の主張に賛同が広がる社会を共に作り出していきたい。(完)

折鶴と共に今年も広島へ行ってきました

管野 明子

8月5日の損保平和集会では、被団協の大内正子さん(被爆2世)からNPTニューヨーク行動、国連でのNPT再検討会議の傍聴参加の報告を受け、参加者からは平和への思いが語られ、集会アピールを採択しました。翌6日には損保慰霊碑の前で、原爆で犠牲になられた損保の先輩89名と全ての原爆犠牲者に黙祷、損保の仲間が平和の願いを込めて折った4,000羽の折鶴を捧げました。全損保委員長の挨拶は平和への取組の大切さ、運動を継承する重要性を強調されました。その後、原爆資料館、呉の大和ミュージアムを訪問し、多くの学びを得ました。

今年、戦後81年が経ち、戦争に対する体験、事実を知らない人が大半になりました。軍拡や核抑止論を唱える人は、戦争の実態を学んでいません。平和な世界、日本である為に、核兵器や戦争の非人道性や悲惨さを再確認し、被害・加害の歴史に学び、継承していく事の大切さをあらためて認識しました。微力ながら学び、行動していきたいと思います。



〈職場は今 合併情報 その4〉

2027年4月の三井住友との合併準備が進む中、ビル移転は一部に遅れがあるものの全国で順次実施されています。熊本の地震対応には全国から支援が入っています。現場の損調職場では新システムへの不慣れが負担となり残業が増加しています。本社部門では情報共有の不足や作業のやり直しによる時間ロスへの不満が上がっています。

さらに、2030年度までに4,000人超を削減する施策の一環と思われる、50歳～58歳の基幹社員を対象に退職金を加算する早期退職制度(キャリアチャレンジ支援制度、200名)が提示され、9月1日募集開始、即定員に達し締め切っています。本制度は本人の自由意思に基づくもので、退職強要がないことは組合が確認済みです。合併にあたり、人事制度の細かい協議課題はまだありますが、シニア社員の3年間の処遇維持の決定を始め、大抵は不利益にならないよう激変緩和措置が取られるよう交渉されています。

平和への願いと「原爆許すまじ」の歌声をあすに繋ぎたい

武田 眞理子

東京電力福島第一原発事故から10年が経過した2021年、東京・上野にともされていた「広島・長崎の火」が福島県楡葉(ならは)町の宝鏡寺へと引き継がれました。(この火は兵役で広島にいた故山本達雄さんが、叔父の家の原爆の火をカイロに採取し、故郷の星野村(現在の福岡県八女市)に持ち帰り、上野を始め全国各地に平和の火として分火されたものです)楡葉町の「非核の火」として点火され、隣には「原発悔恨・伝言の碑」が建立されています。以来、楡葉町では毎年8月には「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマを結ぶ碑前祭」が開催され、8月6日に「合唱団この灯」の一員として参加しています。集いの最後には、合唱団と参加者全員で「原爆許すまじ」を歌い、「三度(みたび)許すまじ原爆をわれらの街に」その切なる歌声が、会場いっぱいに響き渡りました。(写真はそのステージの様子です)碑前祭に

先立ち、未だ復興が進みきっていない福島の「いま」をこの目で確かめてきました。車内にいてもマスク着用が必要であり、帰還困難区域の広さは今なお東京23区の半分にも及ぶという、とんでもない現実が広がっています。私たちは、いま目の前にある現実を直視し続ける必要があります。高市首相の「非核三原則」の見直しは許せません。11月18日には八女市より平和教育の一環として歌声を聞かせたいとの要請を受け、カンタータ「この灯を永遠に」の公演会に参加します。これからも心に響く演奏と歌声を通して平和への願いを届けていきたいと思います。

